

活動記録（2022～2023 年度）

2023 年版「市民版環境白書グリーンウォッチ」が休刊となったため、今回の活動実績に 2022 年度の活動を含めて報告する。

<2022 年度>

報告 1 市民版環境白書グリーン・ウォッチの発刊

前年度（2021 年度）から編集委員会にて企画会議を行い、目次建て、執筆者などを決めて、執筆者にて原稿執筆し、編集会議で推敲を重ね、2022 年 5 月に 2022 年版を発刊した。概要は以下のとおり。

■体裁：A4 版 87 頁 モノクロ印刷

■部数：1,000 部

■内容：

第 1 章 気候危機からの脱却に向けて

第 1 節 気候危機の現状と課題

第 2 節 地域の脱炭素化に向けた持続可能なエネルギーへの取組

第 2 章 脱炭素に果たす第一次産業の役割

第 1 節 農業と気候変動

第 2 節 身近な「食」からの脱炭素化

第 3 節 土砂災害を誘発する大規模林業

第 3 章 国内外の環境政策の動向と課題、方向性

第 1 節 プラスチック

第 2 節 脱炭素を含む持続可能な化学物質戦略の必要性

第 4 章 脱炭素社会に原発はいらない

第 1 節 原発の視点から見たエネルギー基本計画の問題点

第 2 節 原発が気候変動対策の足かせになっている

第 3 節 福島第一原発の廃炉の現状

第 4 節 合意なき処理水の海洋放出

第 5 節 福島の復興について

第 5 章 脱炭素社会に向けた地域の先進事例

事例 1 日本国内におけるソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）導入の現状と課題

事例 2 生活クラブ風車「夢風」と「生活クラブでんき」の取組

事例 3 持続可能な地域社会の実現に向けた北海道下川町の取組

■配布先：グリーン連合会員、省庁、国会議員、大学図書館、ジャーナリスト、その他環境分野のオピニオンリーダーなど

報告 2 市民版環境白書 2022 グリーン・ウォッチ発刊記念 シンポジウムの開催

■開催日時：2022 年 6 月 14 日（水）13:30～16:30

■開催方法：オンラインによりウェビナー形式

■プログラム：

講演：「ストックホルム・人間環境会議から 50 年」

加藤 三郎(NPO 法人環境文明 21 顧問)

各章の概要説明：

- ・気候危機の現状と課題：桃井 貴子（気候ネットワーク）
- ・再エネによる地域の脱炭素化の取組：松原 弘直（環境エネルギー政策研究所）
- ・身近な「食」からの脱炭素化：藤村 コノエ（環境文明 21）
- ・脱炭素に向けた農業の取組事例：梅澤 美明（愛のまちエコ倶楽部）
- ・土砂災害を誘発する大規模林業：中嶋 健造（自伐型林業推進協会）
- ・持続可能な化学物質戦略の必要性：中下 裕子（ダイキソ・環境ホルモン対策国民会議）
- ・脱炭素社会に原発はいらない：伴 英幸（原子力資料情報室）

■詳細：<https://greenrengo.jp/archives/6233>

報告 3 環境省との意見交換

定期的に行っている環境省との意見交換会では、第一部は 6 回目の改定となる環境基本計画をテーマに、第二部は小グループに分かれて環境省の職員との意見交換を行った。

■開催日：2023 年 1 月 17 日(火)10:45～14:00

■開催方法：オンライン

■参加人数：

環境省出席者：16 名（1 部・2 部延べ人数）

グリーン連合出席者：25 名（15 団体）

■内容：

第一部（11:00～12:00）全体会「環境基本計画の改訂について」

第二部（13:15～14:15）小グループでの意見交換

テーマ：

- ①地域での脱炭素の取り組みへの住民参画の具体的方法
- ②化学物質の環境汚染への対応について
- ③できるだけ多くの国民に環境問題を理解し、実践してもらうための効果的な広報について

<2023 年度>

報告 1 市民版環境白書グリーン・ウォッチ

2023 年版は編集方針や編集体制を見直した結果、休刊となり、2024 年版の発行準備を以下のよ
うなスケジュールで行った。

- 2023 年夏～秋 企画・構成内容検討
- 2023 年末～24 年初め 執筆
- 2024 年 6 月 発行

報告 2 グリーン連合シンポジウム

2023 年版グリーン・ウォッチは休刊であったが、総会と同時開催のシンポジウムをオンラインと
会場参加のハイブリッド方式で開催した。

- 日時：2023 年 6 月 8 日（木）13:00～16:00
- 開催：オンライン（ウェビナー方式）＋会場参加のハイブリッド方式
（会場）文京区民センター 3-A 会議室
- プログラム
 1. 「GX 問題と汚染水放出問題」
伴英幸（原子力資料情報室）
 2. 「気候危機と GX 基本方針の課題」
桃井貴子（気候ネットワーク）
 3. 「有害化学物質汚染から子どもたちを守るために
～シグナル毒性化学物質にどう対処するのか～」
中下裕子（ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議）
 4. 「自然エネルギー100%による地域の脱炭素化への展望」
松原弘直（環境エネルギー政策研究所）
 5. 「バイオマス発電の課題～気候変動を加速し、森林生態系を破壊する」
飯沼佐代子（地球・人間環境フォーラム）
 6. 「棚田から日本の環境と食料問題を考える」
安井一臣、永菅裕一（棚田 LOVERS）
 7. 「持続可能な社会に向けた環境教育・普及啓発の現状とこれから」
藤村コノエ（環境文明 21）
- 詳細：<https://greenrengo.jp/archives/6288>

報告 3 環境省との意見交換会開催

定期的に行っている環境省との意見交換会では 2024 年春に決定される予定の第 6 次環境基本計
画をテーマに行った。

- 開催日時：2024 年 3 月 11 日(月)13:00～15:00
- 開催方法：環境省会議室＋オンライン(Zoom)

■参加人数：

環境省側出席者：6名

グリーン連合側出席者：16名（12団体）

■内容：次期の環境基本計画案について

- ・挨拶(環境省、グリーン連合)
- ・環境基本計画案の説明(環境省)
- ・テーマ別の意見交換(気候変動、化学物質、生物多様性、市民参加など)

報告 4 勉強会

2023年度は以下のとおり計4回の勉強会を行った。

○環境NPO/NGOの基盤強化策について（第1回）

日時：2023年9月7日（木）

内容：藤村氏より勉強会の趣旨説明、参加者による意見交換

○環境NPO/NGOの基盤強化策について（第2回）

日時：2023年11月28日（火）

内容：大久保規子先生講演、参加者による意見交換

○棚田と生物多様性

日時：2024年1月18日（木）

内容：呉地正行（ラムサールネットワーク理事）講演と参加者による意見交換

○環境基本計画案の検討会

日時：2024年3月28日（木）

内容：第6次環境基本計画案について市民参加を中心に検討する

報告 5 会員アンケートの実施

グリーン連合は2015年6月設立から8年目を迎えた。多様化、複雑化する環境問題へ対応する環境NPO/NGO各団体の個別の使命や目的を越えて互いに繋がり結集し、強く社会に働きかけて行くことを目指して設立した当連合だが、8年が経過し、加盟団体数は増えず、減少傾向にある。

2023年6月開催の総会において、代表幹事3名が交代したことを受けて、新たな体制下で今一度加盟団体からの意見、批判などの声を集めることを目的とし、アンケートを実施した。結果集計を受けた活動は2024年度に展開する予定である。

配布数：グリーン連合会員（80団体）

回収数：14団体